



第21回まちだ男女平等フェスティバルが開催されました

コロナ禍でのジェンダー平等！—紙面と動画配信—

今回のフェスティバルは、新型コロナ感染防止のため、初めての試み・オンラインでの動画配信(2021年1月30日~2月28日)と、「町田市男女平等推進センターだより第21号」の紙面で開催しました。

メイン企画 基調講演

日本のジェンダー平等の達成について
— 我が国の問題点と各国から学ぶ達成への道しるべ —

講師:林 陽子 さん

弁護士/前国連女性差別

撤廃委員会委員長



講演は、「国連女性の10年のテーマである『平等・開発・平和』に沿って、日本の現状を考察し、ジェンダー平等先進国から学べるものを考える。」内容であった。折しも、森オリンピック組織委員会委員長の「女性差別発言」があり、まさに日本がジェンダーギャップ指数 121 位である「現実」が国民の目に明らかにされた。日本は国連女性差別撤廃委員会から数々の「勧告」を受けている。「平等の課題」を中心に、①法律の中の差別をなくそう ②女性に対する暴力、リプロダクティブ・ヘルス・ライツの重要性 ③包括的な差別禁止法を作ろう ④クォータ制を導入しよう ⑤国のジェンダー平等機関を強化しよう など、データを具体的に示しながら、弁護士であり、国連女性差別撤廃委員として活動された豊富な経験から、「ジェンダー平等先進国から学べる点」や「どのようにしたら平等の課題を達成できるか」について話された。行動への指針が明確に示され、「道のりは険しい」が、勇気と希望が湧いた。又次世代への「ジェンダー平等の闘いへの呼びかけ」もあり、展望が持った講演会であった。

実行委員会企画1

講師:北原 みのりさん

コロナ禍で見えてきた
ジェンダー平等への道

著作家/フラワーデモの呼
びかけ人



お話を聞いて 2019年4月11日北原さんの呼びかけで性暴力を考えるフラワーデモは始まりました。この時女性達は相次ぐ性暴力の無罪判決のニュースを聞きながら、怒りを抱えていた。北原さんの「集まろう」という呼びかけは、その後の無罪判決や今につながるジェンダー平等社会への分岐点を作ってくれたのではないかと思います。この功績は偉大です。今回のお話も多くの示唆を含んでいた。私達が不正義に対して声を出すことが大きな力となることも。私達の声と行動で世界的にも遅れた男性優先の日本を、ジェンダー平等の社会に変えたいと思わせてくれた講演であった。

実行委員会企画2

講師:須賀 義一さん

ママから見た子育て、
パパから見た子育て
— 保育士おとーちゃんに
聞いてみよう —

子育てアドバイザー/
保育士



子育てはママが主役、
パパがわき役！？

講演の要旨 男性は全般的に対等に家事育児をすることで父になり夫になる。女性の生きづらさは、賃金格差だけでなく、「女性だからきめ細やかな子育てができるはず」というジェンダーバイアスで他人の目が気になることにある。男性も女性も自分の人生を生きる。感情をだし「素の自分」を出すことで楽になる。

お話を聞いて 私たちは性別でなく個性として生き方を考えていく必要があり社会も変わっていかなくてはならないと思った。

